

# 中3数学D 宿題解答 2学期-8

## 宿題 8-1

方程式

$$x^2 - 6x - k = 0$$

$$\therefore x^2 - 6x = k$$

の実数解は,

$$\begin{cases} y = f(x) = x^2 - 6x \\ y = k \end{cases}$$

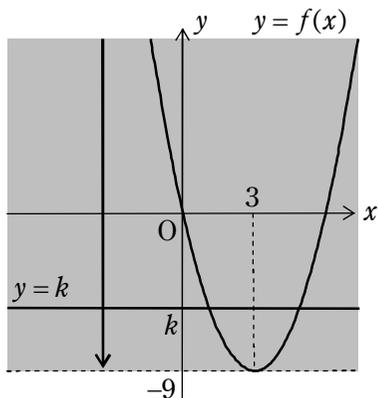
のグラフの交点の  $x$  座標に他ならない.

$$f(x) = (x-3)^2 - 9$$

より,  $y = f(x)$  のグラフは, 頂点  $(3, -9)$  で下に凸な放物線である.

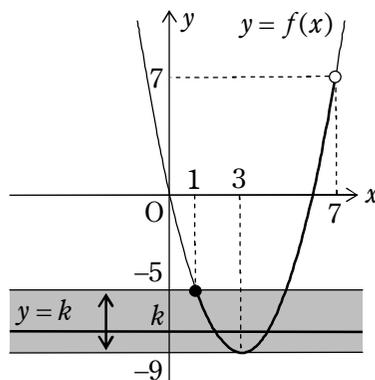
- (1) 求める  $k$  の範囲は,  $y = f(x)$  と  $y = k$  のグラフが異なる 2 点で交わるような  $k$  の範囲と言い換えられるので, グラフより

$$k > -9$$



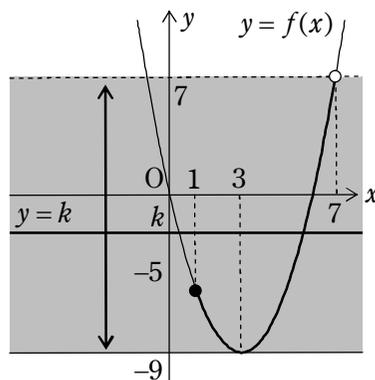
- (2) 求める  $k$  の範囲は,  $y = f(x)$  の  $1 \leq x < 7$  の部分と,  $y = k$  のグラフが, 接する場合も含めて 2 点で交わるような  $k$  の範囲と言い換えられるので, グラフより

$$-9 \leq k \leq -5$$



- (3) 求める  $k$  の範囲は,  $y = f(x)$  の  $1 \leq x < 7$  の部分と,  $y = k$  のグラフが, 交点をもつような  $k$  の範囲と言い換えられるので, グラフより

$$-9 \leq k < 7$$



宿題 8-2

I)  $C: y = x^2 + 8$ ,  $l: y = 2m(x+1)$

(1)  $l$ は傾き  $2m$  で、定点  $(-1, 0)$  を通る直線.

(2)  $C$ と $l$ が接するとき、接点の $x$ 座標を解にもつ方程式

$$x^2 + 8 = 2m(x+1)$$

$$\therefore x^2 - 2mx - 2m + 8 = 0 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

は重解をもつ.

②を平方完成すると

$$(x - m)^2 = m^2 + 2m - 8 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

なので、この方程式が重解をもつことから、

$$m^2 + 2m - 8 = 0$$

$$(m + 4)(m - 2) = 0$$

$$\therefore m = -4, 2$$

これらの $m$ の値に対して、③は $x = m$ を重解にもち、これが接点の $x$ 座標であるから、

$m = -4$ のとき接点の座標は $(-4, 24)$   
 $m = 2$ のとき接点の座標は $(2, 12)$

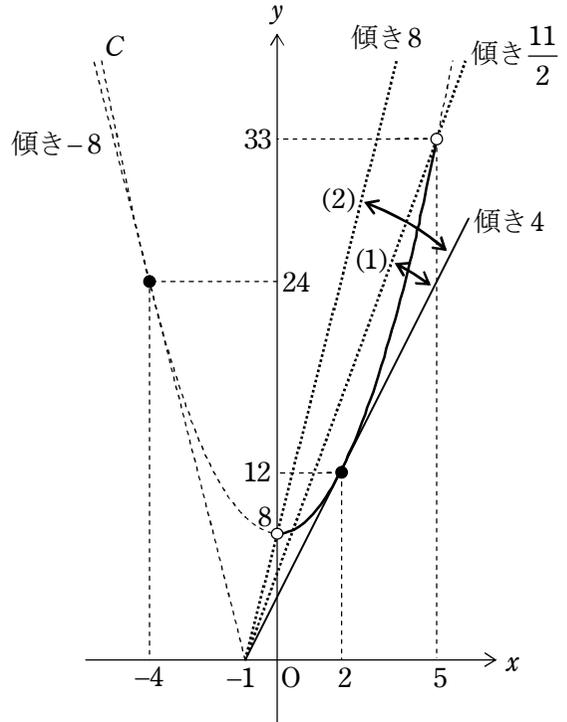
II) 方程式①は、I) (2)の②と同じ方程式であり、 $C: y = x^2 + 8$ と $l: y = 2m(x+1)$ の交点の $x$ 座標を解にもつ方程式である.

I) より、 $l$ は

傾き  $2m = -8$  のとき、 $(-4, 24)$ で、

傾き  $2m = 4$  のとき、 $(2, 12)$ で

$C$ と接している.



(1) 求める $m$ の範囲は、 $C$ の $0 < x < 5$ の部分と、 $l$ が、接する場合も含めて2点で交わるような $m$ の範囲と言い換えられる。グラフより、条件を満たすような $l$ の傾き $2m$ の範囲は $4 \leq 2m < \frac{11}{2}$ なので、 $m$ の

範囲は、 $2 \leq m < \frac{11}{4}$ .

(2) 求める $m$ の範囲は、 $C$ の $0 < x < 5$ の部分と $l$ が交わるような $m$ の範囲と言い換えられる。

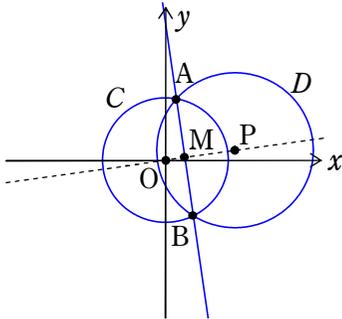
グラフより、条件を満たすような $l$ の傾き $2m$ の範囲は $4 \leq 2m < 8$ なので、 $m$ の

範囲は、 $2 \leq m < 4$ .

宿題 8-3

$C: x^2 + y^2 = 10$  ..... ①

$D: x^2 + y^2 - 7x - y = 3$  ..... ②



- (1)  $C, D$  の 2 交点  $A, B$  の座標は①, ②を満たすので,

① - ②:  $7x + y = 7$  ..... ③

も満たす. よって, ③の表す直線は  $A, B$  を通るので, これが直線  $AB$  の式に他ならない.

- (2) (1)を利用する, 2つの方針を挙げる.

[方針 I]

$A, B$  は円  $C$  と直線  $AB$  の 2 交点でもあるので, その座標は

$$\begin{cases} \text{①} \\ \text{③} \end{cases}$$

の解である.  $A, B$  の  $x$  座標  $\alpha, \beta$  は, ③より  $y = -7x + 7$  を①に代入した

$$x^2 + (-7x + 7)^2 = 10$$

$$50x^2 - 98x + 39 = 0$$

の 2 解であるから, 解と係数の関係より

$$\alpha + \beta = \frac{98}{50}$$

したがって,  $M$  の  $x$  座標は  $\frac{\alpha + \beta}{2} = \frac{49}{50}$  で

あり,  $M$  は直線  $AB$  上の点なので,  $y$  座標は③より,

$$-7 \cdot \frac{49}{50} + 7 = 7 \left( 1 - \frac{49}{50} \right) = \frac{7}{50}$$

よって,  $M \left( \frac{49}{50}, \frac{7}{50} \right)$  である.

[方針 II]

$D$  の中心を  $P$  とする.

弦  $AB$  の垂直二等分線は  $C$  の中心  $O$ ,  $D$  の中心  $P$  を通るので,  $M$  は直線  $OP$  上の点であり, 直線  $AB$  と直線  $OP$  の交点である.  $D$  の式を平方完成すると

$$\left( x - \frac{7}{2} \right)^2 + \left( y - \frac{1}{2} \right)^2 = \frac{31}{2}$$

なので, 中心は  $P \left( \frac{7}{2}, \frac{1}{2} \right)$  であり, 直線

$OP$  の式は

$$y = \frac{1}{7}x \text{ ..... ④}$$

である. 直線  $AB$  との交点の座標は

$$\begin{cases} \text{③} \\ \text{④} \end{cases}$$

の解なので, これを解いて

$$M \left( \frac{49}{50}, \frac{7}{50} \right)$$

が求まる.

宿題 8-4

$$N = 3^{2015} + 2$$

(1)  $N \equiv 1^{2015} + 0 \equiv 1 \pmod{2}$

なので、 $N$  を 2 で割った余りは  $\boxed{1}$  .

$$N \equiv 0^{2015} + 2 \equiv 2 \pmod{3}$$

なので、 $N$  を 3 で割った余りは  $\boxed{2}$  .

$$N \equiv (-1)^{2015} + 2 \equiv -1 + 2 \equiv 1 \pmod{4}$$

なので、 $N$  を 4 で割った余りは  $\boxed{1}$  .

$$3^4 \equiv 81 \equiv 1 \pmod{5} \text{ に注目すると,}$$

$$3^{2015} = 3^{4 \times 503 + 3} = (3^4)^{503} \times 3^3$$

より,

$$N \equiv 1^{503} \times 27 + 2 \equiv 1 \times 2 + 2 \equiv 4 \pmod{5}$$

なので、 $N$  を 5 で割った余りは  $\boxed{4}$  .

- (2) 整数  $x$  に対して、 $x^2$  の mod 3 での値は、  
下の表より、0, 1 のいずれかである。

$x \pmod{3}$	0	1	2
$x^2 \pmod{3}$	0	1	1

一方、(1)より、 $N \equiv 2 \pmod{3}$  であるから、 $N$  は平方数でない。

※ mod 2, mod 4 での平方数の値は 1 になりうるので、 $N \equiv 1 \pmod{2}$ ,  $N \equiv 1 \pmod{4}$  からは、 $N$  が平方数か否かを判断することはできない。

mod 5 での平方数の値は 4 になりうるので、 $N \equiv 4 \pmod{5}$  からも、 $N$  が平方数か否かを判断することはできない。

宿題 8-5

(1)  $t^3 - 3t + 2 = 0$

$$f(t) = t^3 - 3t + 2 \text{ とおくと,}$$

$$f(1) = 0$$

なので、 $f(t)$  は  $t-1$  で割り切れることが分かり、

$$f(t) = (t-1)(t^2 + t - 2)$$

$$= (t-1)(t+2)(t-1) = (t-1)^2(t+2)$$

と因数分解される。よって、 $f(t) = 0$  の

解は、 $\boxed{t=1, -2}$  .

(2)  $(x^2 + 3x)^3 - 3(x^2 + 3x) + 2 = 0$

$t = x^2 + 3x$  とおくと、方程式は

$$t^3 - 3t + 2 = 0$$

となり、この解は、(1)より、 $t = 1, -2$  .

したがって、求める方程式は

$$x^2 + 3x = 1 \text{ または } x^2 + 3x = -2$$

と言い直せる。

それぞれの 2 次方程式を解いて、

$$\boxed{x = \frac{-3 \pm \sqrt{13}}{2}, -1, -2}$$

(3)  $x^6 - 3x^2 + 2 = 0$

$t = x^2$  とおくと、方程式は

$$t^3 - 3t + 2 = 0$$

となり、この解は、(1)より、 $t = 1, -2$  .

したがって、求める方程式は

$$x^2 = 1 \text{ または } x^2 = -2$$

と言い直せる。

後者は実数解を持たず、求める解は

$$\boxed{x = \pm 1}$$